学習院大学
国際交流センター
Centre for International Exchange
Gakushuin University
October 1, 2009

Newsletter vol.24

質問する側の視点：奨学金の面接審査に際して

法学部政治学科教授　元田　結花

国際交流センターの委員として、学内の留学向け奨学金の面接審査を行う際は、応募者が情報通信技術の進展を如何に活用しているのかという点に着目しています。私がイギリスの大学院に留学したのは1990年代後半でしたが、当時は、各大学のホーム・ページも今のように充実しておらず、概略を確認して候補校を絞り込んだ後は、各校のアドミッション・オフィスに手紙を書いて、大学案内(Prospectus)と応募書類を送ってもらうという手順を踏みました。手元に大学案内が届くのは、手紙を出してから最短でも２週間後となります。その後、案内を読み込んで、コースの内容や教員陣をチェックし、ここはと思った大学の手順に従って、応募書類を用意していきます。この時点で不明な点があれば、基本的に手紙で問い合わせることになり、回答を得るまでにさらに時間がかかります。応募書類の提出も郵送にて行いましたが、郵便事故など最悪のケースにも対応できるように、EMSのような追跡調査の可能なサービスを利用することが必須でした。

それから10年ほどの月日が流れた現在では、ほとんどの大学で、ホーム・ページから大学案内と応募書類をダウンロードできるようになっていますし、電子メールを用いて質問に応じる体制も整っています。応募手続き自体をオンラインで受け付けているケースも珍しくなく、留学の一連の手続きに費やすコストは格段に低くなりました。意欲さえあれば誰でも十分な事前準備ができるようになり、学生の進路の選択肢を増やし、留学生活の幅を広げるといった効果も期待されます。

もちろん、実際に留学してみると、日本にいるときに予想していたのとは勝手が違う場面――勉強についてであれ、日常生活についてであれ――に直面することが多々あるでしょうし、全く異なる環境に身を置く以上、それが当然でしょう。状況に応じて当初の目的や計画を変更することも必要になるでしょうから、いくら事前に準備をしたところで限界があると言えるかもしれません。私自身は、事前準備の意義は、完璧な計画を作る点にあるのではなく、留学に向けた姿勢や心構えを身につける点にあると考えています。なぜこの大学を希望するのか、そこで何を学び、それは将来の自己の進路にとってどのような意味を持つのかといった問いに答えていくことによって、自分が留学に求めていることを理解し、その実現のために自分がとるべき方針を確立できれば、留学先で予期せぬ状況にぶつかったとしても、その時点で「最善である」と納得できる判断を下せるようになると思うのです。

このような考えに基づいて、奨学金の面接の場では、あれこれと応募者に質問を投げかけていきます。現在の情報通信環境を考慮して、応募者がかなりの程度下調べができることを前提としているため、質問される側にとっては、時に厳しい内容だと感じられるかもしれません。こちらとしては、別に応募者が回答に窮する姿を楽しんでいるわけではありません。短い時間ではあれ、こういった面接の場が、各人の留学の指針を確立する一助になるように願いつつ、留学の目的や将来の計画を一生懸命に語る応募者に、心の中で「がんばれ！」と声をかけながら、質問しているのです。

バイロイトでの学生生活

文学部ドイツ語圏文化学科４年　我澤はな子

ドイツには「大学町」と呼ばれる町がたくさんあります。例えば私の留学していたバイロイトもその一つです。バイロイト大学では、学習院大学よりも少し多い約１万人の学生が勉強しています。この大学で私は１年間、日本とは少し違う「ドイツの学生生活」を経験しました。

私は１年間学生寮に住んでいました。ドイツでは何人かでキッチンやシャワーなどを共同で利用するＷＧ（住居共同体という意味）が一般的で、私も４人の学生とキッチンを共同で使っていました。４人というのはドイツ人３人とポーランド人１人です。みんなとても親切で、一緒にご飯を作ったり、誕生日会を開いたりしました。勉強している分野も国籍も年齢も違う５人ですが、１年間楽しく暮らせました。

大学はその寮から徒歩５分ほどのところにあり、平日はほぼ毎日大学に通っていました。何より大学に行けば必ず誰か友達に会えるので、それが楽しみで、授業がない日でも大学にいることがほとんどでした。また、私は留学前からネイティブのドイツ語や生活に興味があったので、ドイツ人の友達をたくさん作りたいと思っていました。幸い日本ですでに知り合った友達や、渡航直後に知り合っていろいろとお世話になっていた友達がいたので、彼らを通してすぐにたくさんの友達ができました。まだドイツ語を上手く話せなかった私が１人ドイツ人のなかに入っても、彼らは親切に分からない単語を説明してくれたり、日本のことを聞いてくれたり、すぐに外国人の私を受け入れてくれました。そしてそれから１年間、お昼は学食で友達と食べることが習慣になりました。学食でドイツ人が話すドイツ語は若者言葉や方言が混ざっていて、授業で習うドイツ語とは少し違います。でも、それがまた面白く、学食でしか学べないことでもありました。さらに話題は最近のニュースの話から週末のパーティーの話まで様々で、ご飯を食べ終わっても話が尽きないことがしばしばありました。

夜や週末は、大学の勉強を離れてリフレッシュする時間です。寿司を作ったり（ドイツではかなりのブームです！）、映画を観たり、パーティーに行ったり……特にビール片手にテレビでサッカー観戦というのはドイツらしいなと思いました。

▲バイロイトの町並み

▲親友ユリアと

▲友人の家で

バイロイトの良いところは、小さい町なので友達がみんな近くに住んでいるということです。楽しいときも、辛いときも一緒にいてくれる友達のおかげで、こんなに充実した１年を過ごすことができました。またドイツに帰ってくることを目標に、日本でもこの経験を活かして頑張ろうと思います。

世界の国からいただきます。

学習院大学韓国人留学生会

今回は、韓国人留学生会に、トッポキの作り方を紹介してもらいました。

トッポキはうるち米を使った韓国の屋台の定番メニューで、おやつなどとして、家庭でも良く作られるそうです。今や日本でもポピュラーな韓国料理なので、実際にトッポキを目にしたり、名前を聞いたことがある皆さんも多いと思います。レシピも多数紹介されていますが、今回紹介してくれたものは、ごく普通に家で作られている、家庭的な味のトッポキの作り方です。みなさんもぜひチャレンジしてみてください。

なお、韓国人留学生会によるトッポキのお店が、大学祭に出店される予定です。韓国人留学生手作りの本場の味が楽しめると思いますので、乞うご期待！また、お店に訪れた際はぜひ、韓国語で、「잘 먹겠습니다（チャルモッケッスムニダ）＝いただきます」、「잘 먹었습니다（チャルモッゴスムニダ）＝ごちそうさま」と留学生に声をかけてみてください。

韓国編

떡볶이 トッポキ

●材料（２～３人分）
トッポキ用のうるち米のお餅：300ｇ
ゆで卵、さつま揚げ、長ネギ、キャベツ、人参、ピーマン
※さつま揚げや野菜などは好きなだけ入れれば大丈夫です。

●味付け
砂糖、和風調味料（ほんだしなど）：各少量
コチュジャン：大さじ２　　油：大さじ1/2

●作り方
1）フライパンに油とコチュジャンを入れていためる。**←ここがポイント！**
2）いためたコチュジャンに水２カップぐらい入れて、和風調味料、お餅を入れて弱火で10分ぐらいゆでる。
3）お餅に味が染み込んだら食べやすく切った野菜やさつま揚げ、ゆで卵などを加えて５分～10分ぐらい煮込む。
4）味付けは甘く食べたいなら、砂糖を多めに入れたり、少し辛いのが良いなら、粉唐辛子を入れたり、お好みで味を調整する。
煮詰めながらいためたら出来上がり。

お元気ですか、センパイ!?

国際協力機構（JICA）中東・欧州部　欧州課　中川 祐実（2006年3月文学部英米文学科卒業）

▶留学時代の友人と
（右から2番目が中川さん）

私は、大学卒業後、国際協力銀行（JBIC）という輸出入や海外事業展開を行う日本企業支援等を目的とした出融資等業務（国際金融等業務）と、開発途上国への有償資金協力業務（海外経済協力業務）という2つの「経済協力の実現」を目的とした政府系金融機関に就職しました。

昨年10月、JBICが、国際協力機構（JICA）という政府開発援助（ODA：途上国に対する支援〈技術協力、無償援助等〉）実施の一部を担う機関と統合したため、現在はJICAで、中東・欧州部でトルコとマケドニアに対する支援業務を担当しています。

具体的には、JICAがトルコやマケドニアに対して譲許的な融資（円借款：長期で低金利の融資。開発途上国の経済発展に欠かせない大規模インフラ建設・整備等に活用されています。）を利用して支援を行っているプロジェクトの実施監理や新規案件組成などを主に行っています。

これらの過程において、日本と相手国との関係を考慮しつつ、国内外の関係者の方々と日々話し合いをしながら、最適な支援方法を検討し、プロジェクトマネジメントを行っていきます。

「経済協力の実現」というフィールドにおいて、「日本人の代表選手として自分が相手国に対し、今、何がしたいか、何が出来るか」を考えるには、広い視野と柔軟性が常に求められますが、同時に「世界を舞台にして働いている」という醍醐味を感じることが出来る、とても魅力的な仕事だと思っています。

このフィールドに自分が身を置くきっかけとなった経験の一つに留学があります。

私は、イギリスにあるヨーク大学の言語学部（主専攻）と教育学部（副専攻）に2003年（大学２年次）からの１年間、協定留学をしました。

もともと父の仕事の都合でイギリスで生まれたため、歴史、文化、町並みの美しさ、国民性全てに愛着があり、念願叶ってのイギリス留学でした。

当初は、大量の課題や（留学生の私にはちょっと難易度の高い英語での）ディスカッション等に苦労することも多々ありましたが、言語学を専攻していた私は、ヨークシャー地方の方言について、まさに本場で資料を収集し、帰国後の卒業論文執筆期間には、再度現地で調査を行うなど、とても有意義な研究を行うことが出来ました。

また、今でも連絡を取り合うような友人がイギリスを含め世界各地にできたことや、様々な国へ旅をしたりしたことをきっかけに、「日本人である私は何が出来るのか」という漠然とした意識を持つようにもなりました。

その漠然とした意識の中で「経済協力」への関心、つまり、「恐らく私が死ぬ頃になっても、開発途上国はなくなっていないし、途上国への経済開発支援も続けられている。また、どんなに開発途上国で困っている人々のことを思っても、自分が代わりにその国の人になってあげることはできない」との強い思いが結びつきました。

今の仕事は、日本人である自分が少しでも役に立てればと、留学をきっかけに抱いた気持ちがあったからこそ選んだ道であり、その経験が日々生かされていると感じています。

語学力はもちろんですが、個人を尊重するという意識が高められたことも、留学で得られたことの一つです。留学を通して、個人を重んじることとは、単に多様性を受け入れることではなく、自分の考えや気持ちを同時にアピールし、コミュニケーションの中で理解や調和を図ることだと知りました。仕事で支援している国の方と接する場合でも、相手国の事情や考えをきちんと聴きつつ、お互いが尊重し合える対話や関係を築くことが今出来ているのではないかと感じています。

最後になりましたが、身につく能力、出会う人、感じる空気、経験する出来事、そして自分の中での新たな考え方…留学で得られることは一つではありません。時に、それは自分の将来を変えるような財産になるかもしれません。今、将来目指している道と直接関係がなかったとしても、機会さえあれば、チャレンジしてみる価値は大いにあると思います。皆さんも是非一歩踏み出して、留学で素晴らしい財産と出会ってください。

▶出張時、
相手国政府の方々と
（左端が中川さん）

Welcome to Gakushuin!

本学では、交流協定を締結し、学生の交換を進めています。この秋、新たに、11の大学から協定留学生が来日しました。今年４月に来日した協定留学生を含め、現在、18名の協定留学生が本学で学んでいます。協定留学生の母国での在籍大学は、下記のとおり多岐に渡っています。

慶北大学校（韓国）、チュラロンコン大学（タイ）、オーストラリア国立大学、ニューサウスウェールズ大学（以上、オーストラリア）、ウェリントン・ヴィクトリア大学（ニュージーランド）、ノースカロライナ州立大学シャーロット校（アメリカ）、エディンバラ大学、オックスフォード・ブルックス大学（以上、イギリス）、マンハイム大学（ドイツ）、リヨン第二大学（フランス）、国立ナポリ東洋大学、ボローニャ大学（以上、イタリア）、アイスランド大学

彼らと友達になることで、お互いの国の文化や社会についての理解も深まるでしょう。もし、キャンパスで彼らを見かけたら、ぜひ声をかけてあげてください。

※なお、上記は大学間交流を基にしたデータです。上記以外に、学部間等でも学生交換が行われています。

平成22年度学習院大学海外留学奨学金の募集について

本学では、皆さんの留学を経済的な側面から支援するため、本学独自の海外留学奨学金制度を設けています。学外のものに比べ、奨学金が得られるチャンスは大きいので、留学を予定している皆さんはぜひチャレンジしてください。

選考は、書類および面接により行われます。面接を受けることが求められますので、下記の募集スケジュールを参考に、自分の留学の予定に合わせて、応募してください。

平成21年度の募集はすでに終了しました。平成22年度第1回目の募集については、国際交流センターのHPでお知らせします。

応募条件：「留学願」が承認されている者。（海外の大学・大学院等に留学が決定しているか、出願中の者で、奨学金給付時までに「留学願」が承認されることが見込まれる者を含む。）他

※応募時点で「留学願」が承認されている必要はありません。

奨学金額：１人５０万円以内（給付）

募集人数：２０名（年間）

募集日程：

年度	募集時期（応募締切）	応募対象者
22年度	第1回（平成21年12月） 第2回（平成22年6月）	学籍簿上の留学期間が ①H22年4月～H23年3月 および ②H22年10月～H23年9月の者

※ただし、留学期間が①の者は第1回に応募するのが望ましい。

平成21年度大学院学生の国外における研究発表援助の募集について

本学では、海外の学会等で研究発表を行う大学院学生に対し、渡航費用等の援助（限度額：10万円）を行っています。募集は年1回行っており、現在、今年度分の出願を受け付けています。募集要項は国際交流センターで配布しています。

平成20年度大学院学生国外研究発表援助採用者

所属			氏名
経営学	経営学	博士後期	戴 秋娟
人文科学	哲学	博士後期	土谷 真紀、ペリーニ エリザベッタ
	史学	博士後期	小宮山 嘉浩
	日本語日本文学	博士後期	吉村 晶子
自然科学	化学	博士前期	酒本 翼、高橋 真紀子、上野 弘貴、浦島 航介、大戸 惇一、岡本 真実、柏木 祐、鈴木 透、遠山 知亜紀、野田 明希

※所属はH20年度のもの

2010年度協定留学プログラム（第２期）派遣学生募集中！

国際交流センターでは、現在、2010年度第２期（派遣先：中国、アメリカ、ヨーロッパ等・留学期間：2010年10月～2011年9月）の出願を受け付けています。
募集要項は国際交流センターで配布しています。多くの皆さんの出願をお待ちしています。

なお、2010年度第１期（派遣先：韓国、タイおよびオセアニア等・派遣期間：2010年4月～2011年3月）の募集はすでに終了しました。

2009年度協定留学プログラムによる派遣学生の皆さんは以下のとおりです。

大学名	派遣学生名
チュラロンコン大学（タイ）	文学部史学科４年 今井 里美
復旦大学（中国）	経済学部経営学科３年 呉 文恵
	文学部史学科３年 山本 円
ノースカロライナ州立大学シャーロット校（アメリカ）	文学部英米文学科３年 椎名 遥香
	法学部政治学科２年 本田 貴和子
エディンバラ大学（イギリス）	文学部英米文学科３年 河田 美織
	文学部英米文学科３年 島田 なつき
オックスフォード･ブルックス大学（イギリス）	文学部英米文学科３年 小林 ちよ美
	文学部英語英米文化学科２年 清水 祐葵
マンハイム大学（ドイツ）	文学部ドイツ語圏文化学科４年 鈴木 和久
バイロイト大学（ドイツ）	文学部史学科３年 奥山 侑未
	文学部ドイツ語圏文化学科３年 山中 勝代
リヨン第二大学（フランス）	人文科学研究科フランス文学専攻博士前期課程２年　井戸 亮
	文学部フランス語圏文化学科３年 横田 彩
ボローニャ大学（イタリア）	文学部哲学科３年 野口 智美

国際交流センターボランティア募集のお知らせ

国際交流センターでは、留学生対象のイベント（留学生懇親会など）の企画・運営のお手伝い、留学生の相談相手、短期ホストファミリーなどのボランティアを随時募集しています。

今学期より学部１年生の登録も受け付けますので、登録を希望する学生のみなさんは、来室の上、手続きをしてください。

？さて、どこでしょう？

今回も表紙の写真は、禹昊穎さん（人文研・日文専攻M2年）にお願いしました。秋の雰囲気たっぷりのこの写真も、もちろん、学内で撮影されたものです。どこの写真かわかりますか？

Newsletter vol.24

October 1, 2009

発行日／2009年10月1日

編集・発行／学習院大学国際交流センター

〒171-8588　東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024　FAX.03-5992-1025

http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html

●編集後記●　この夏、卒業した留学生の結婚式に参加するため、中国に旅した。中国式の結婚式に出席するのは初めてで、早朝から始まり、お昼過ぎに終了した一連の儀式すべてが、貴重な経験となった。式の間、新婦が学生の頃を思い出し、胸が一杯になったりもした。同じく日本から式にかけつけた数名の卒業生達にも再会し、楽しい夏の思い出となった。それにしても、街中の道路を渡るのに苦労した。信号はあるにはあるが、クラクションを鳴らしまくる車とてんでに道を渡る歩行者。生きて帰れたのが奇跡に感じられる。中国人のエネルギーはすごい。

[平成21年度国際交流センター運営委員]

所　長	水野　謙	（法学部）
運営委員	元田　結花	（法学部）
〃	Brown, Phillip	（経済学部・外国語教育研究センター）
〃	村野　良子	（文学部）
〃	村松　康行	（理学部）
〃	宮川　努	（教務部長・経済学部）
〃	荒川　一郎	（学生部長・理学部）